

CPD 認定プログラム
JSCE18-0385 11.8 単位



2018 年度 河川技術に関するシンポジウム—新しい河川整備・管理の理念と
それを支援する河川技術に関するシンポジウム— プログラム

(6月12日～13日、東京大学農学部弥生講堂)

6月12日(火)	第1日目	開催場所：
08:50-	受付 (ポスターセッション1 設営準備)	
09:50-10:00	開会の挨拶 (河川部会部会長 戸田 祐嗣)	一条ホール
10:00-11:20	<u>ポスターセッション1 (PS1)</u>	エントランスホール
11:30-12:30	<u>オーガナイズドポスターセッション1 (OPS1)</u> 「河川技術としてのリモートセンシングの計測技術とデータ解析」 企画・進行：渡邊・椿	一条ホール
12:30-13:30	昼食 (ポスターセッション2 設営準備)	一条ホール
13:30-14:50	<u>ポスターセッション2 (PS2)</u>	エントランスホール
15:00-15:10	河川技術論文賞 表彰式	一条ホール
15:10-17:20	<u>特定課題オーガナイズドセッション (OS1)</u> 「動的空間としての河道の維持管理技術」 オーガナイザー：戸田、藤山、奥田、溝口	一条ホール
17:30-	交流会	交流会会場
6月13日(水)	第2日目	
08:30-	受付 (ポスターセッション3 設営準備)	
09:30-10:50	<u>ポスターセッション3 (PS3)</u>	エントランスホール
11:00-12:00	<u>オーガナイズドポスターセッション2 (OPS2)</u> 「豪雨による流木流出の特徴と対策へ向けて」 企画・進行：田村・佐藤・本多	一条ホール
12:00-13:00	昼食	
13:00-14:20	<u>ポスターセッション4 (PS4)</u>	エントランスホール
14:30-16:30	<u>特定課題オーガナイズドセッション (OS2)</u> 「河川堤防の維持・管理、機能評価に求められる 新しい技術、研究の持続的な発展に向けて」 オーガナイザー：諏訪、内田	一条ホール
16:30-	閉会式 (河川部会副部会長 渡邊明英) ・優秀発表者賞の発表 ・閉会の挨拶	一条ホール

オーガナイズドセッション 1 (OS1) 「動的空間としての河道の維持管理技術」

オーガナイザー：戸田祐嗣、藤山秀章、奥田晃久、溝口敦子

河道は、大小様々な洪水や植生等の自然の作用を通して絶えず動的に変化しています。河川の維持管理のなかで、洪水を流す器（うつわ）であり、河川環境の形成の場である河道の維持管理が本質的に重要であることは言うまでもありませんが、同時に、河道はその動的特性から、通常の構造物等の維持管理とは異なり、時間軸と変動幅を常に意識した維持管理の視点と高度な技術力が要求される場とも捉えられます。

河道の変化を見極め、適切に対応することが求められる動的な維持管理においては、少なくとも、現状の河道の能力・機能を適切に評価する技術、今後の変化の傾向や程度を把握・予測する技術、許容できる変化の幅を決定するための技術、などが求められるでしょう。とりわけ、洪水流・土砂輸送・植生動態等によって引き起こされる河道変化の把握においては、これまでの洪水流の水理、土砂水理、植生水理の学術的知見や、個々の現場の河道管理における工夫・判断・経験知を、河道の維持管理の視点で結節し、技術的進展を計る必要があるでしょう。また、UAV、ALBなど、近年急速に成長している計測技術を最大限活用することは、河道の動的な維持管理に新展開を与える可能性を秘めています。床止め・堰など河道変化に影響を与える施設の維持・管理・更新等、河道管理と関わりをもつ河川の維持管理を支援する技術の進展も重要です。

本オーガナイズドセッション「動的空間としての河道の維持管理技術」では、時間軸と変動幅を意識した河道の維持管理技術の進展に向け、最新の研究成果、現場での取り組みを報告し、現状の課題を整理するとともに、今後の河道の維持管理技術の方向性・発展性について、皆様と議論いたします。

日時：2018 年 6 月 12 日（火） 15:10～17:20

◆プログラム

1) 15:10-15:20：主旨説明

名城大学 溝口敦子

2) 15:20-16:45：招待講演

河道の維持管理：時空間的に詳細な情報が得られる時代において必要な基礎研究（仮）

埼玉大学 田中規夫

河道の維持管理上の課題と今後求められる河川技術（仮）

国土技術政策総合研究所 福島雅紀

3) 16:45～16:20：投稿論文からの話題提供

【話題提供 1】

大量の土砂が流入する河川の境界条件である土砂量ハイドログラフの実用的推定法の研究
—平成 7 年 7 月姫川大洪水を例にして—

中央大学研究開発機構 後藤岳久

【話題提供 2】

自然堤防帯河川の高水敷掘削後の土砂再堆積～揖斐川と長良川の相違点とその要因～

岐阜大学 原田守啓

【話題提供 3】

高水敷切下げ後の樹林化抑制に向けた草本植物の早期植生回復に関する研究

土木研究所 自然共生研究センター 兼頭淳

【話題提供 4】

河川管理における新技術活用に関する一考察

日本工営 野間口芳希

5) 16:20～17:20：総合討議

[登壇者]

田中規夫 埼玉大学

福島雅紀 国土技術政策総合研究所

後藤岳久 中央大学研究開発機構

原田守啓 岐阜大学

兼頭淳 土木研究所自然共生研究センター

野間口芳希 日本工営

[進行役]

戸田祐嗣 名古屋大学

オーガナイズドセッション2 (OS2)

「河川堤防の維持・管理、機能評価に求められる新しい技術、研究の持続的な発展に向けて」

オーガナイザー： 諏訪義雄、内田龍彦

河川の堤防は最も重要な河川施設の一つでありながら、水工学分野においても地盤工学分野においても必ずしも研究が活発に行われているとはいえない状況にありました。そのような問題認識のもと、河川堤防を対象とした研究の活性化に向け、2010年頃から水工学分野と地盤工学分野が連携し、様々な活動を行ってきました。本シンポジウムでは2012年の特定課題から始まり6回にわたり堤防をテーマとした企画を行いました。また、2011年には、本部会と連携するかたちで地盤工学委員会に堤防研究小委員会が設置されております。これまでの成果として、昨年のシンポジウムにおいて、浸透破壊に関する研究が活発に実施され成果をあげつつあることが報告されました。ただし、この後もこれまでの活動を継続、発展させ、メカニズム研究や、実務を念頭に置いた維持・管理・評価技術開発を実施していくことが重要です。

そこで、本年度のシンポジウムでは、「河川堤防の維持・管理、機能評価に求められる新しい技術、研究の持続的な発展に向けて」と題しオーガナイズドセッションを開催します。セッションでは、具体的なテーマとして、①地盤工学と河川工学連携の意義と今後期待される研究の方向、②堤防植生研究の現状と今後の2つを扱いそれぞれパネルディスカッションと会場との討議を行います。まとめにおいて、この2つ以外の維持・管理・評価技術開発も含めて堤防研究の現状と今後の方向について会場全体で討議します。

日時：2018 年 6 月 13 日（水）14:30～16:30

プログラム

1) 14:30～14:40 趣旨説明

国土技術政策総合研究所 諏訪義雄

2) 14:40～15:55 パネルディスカッション

「(河川工学と地盤工学) 多面的に研究する意義、堤防研究の今後の方向」

司会	: 内田龍彦	広島大学大学院
パネラー	: 福岡捷二	中央大学研究開発機構
	前田健一	名古屋工業大学大学院
	佐々木哲也	国立研究開発法人 土木研究所
	諏訪義雄	国土技術政策総合研究所

3) 15:55～16:15 堤防植生研究の現状と今後の方向

話題提供 : 藤山秀章 河川財団

会場との討議 :

進行 : 諏訪義雄 国土技術政策総合研究所

4) 16:15～16:30 まとめ

国土技術政策総合研究所 諏訪義雄

オーガナイズドポスターセッション 1 (OPS1)

日 時 : 2017 年 6 月 12 日 11 : 30~12 : 30
テーマ : 河川技術としてのリモートセンシングの計測技術とデータ解析
企画・進行 : 観測・解析 WG 渡邊・椿

◆企画趣旨

UAV 等のリモートセンシング技術による地理情報取得の実施例が増えるに従い、本河川シンポジウムにおいてもこれらの技術を活用した論文や報告が数多く投稿されてくるようになっていきます。

リモートセンシング技術の河川管理への一般的な適用には、LP や UAV 等の航空測量による地形計測、地上型レーザースキャナ等を利用した定点観測による地形変化量の計測もしくはモバイルマッピングシステムなどによる堤防などの計測・管理などがあります。このうち、UAV 等による横断面測量の代替などの地形測量技術の基本的なものについては昨年度の OS の中でも取り上げました。今年は、空間スケールが大小両極端な事例として、

小テーマ 1 : 画像解析による河床材料特性の推定方法

小テーマ 2 : 中規模・大規模の空間スケールで生じる河道や河床の変動のモニタリング

の 2 つの観点で技術的な知見を共有し、議論を深めたいと思います。

小テーマ 1 では細かくみた場合の例として画像から河床材料粒度がその分布を含め、どこまでなら確実なことがいえるのか、その限界を規定する画像計測上の課題などを議論したいと思います。

小テーマ 2 では縦断的に大きなスケールで河床形状や流路の変動を平面的に捉えることのできる LP や UAV の特性を生かした地形砂州モニタリングからわかることや従来法と比較した場合の技術的な利点や、得られた結果を今後どのように活かしていくべきか、という観点で議論していただければと考えております。

◆プログラム

1) 11:30～11:33 趣旨説明

2) 11:33～12:18 話題提供

(1) 小テーマ 1

【話題提供 1】 UAV 撮影画像処理による河床表層粒度分布把握に関する基礎的研究

建設技術研究所 平生昭二

【話題提供 2】 UAV 空中写真の河床材料調査への適用性に関する検討

日本工営 秋田麗子

(1) 小テーマ 2

【話題提供 3】 2011 年深層崩壊発生後の赤谷からの土砂流出と

川原樋川との合流点での河床上昇について

国土交通省 木下敦彦

【話題提供 4】 網状流路を有する大井川における植生域消失と流路変動の関係

愛知工業大学 赤堀良介

3) 12:18～12:30 会場とのディスカッション

・ 今度の技術の進展や活用などについて

オーガナイズドポスターセッション 2 (OPS2)

日 時 : 2018 年 6 月 13 日 11:00~12:00
テーマ : 豪雨による流木流出の特徴と対策へ向けて
企画・進行 : 気候変動WG 田村・佐藤・本多

◆企画趣旨

H28 年の北海道・東北豪雨や H29 年の九州北部豪雨においては、土砂流出とともに大量の流木が河川へ流出しました。流木は、橋梁部に捕捉されて水位のせき上げが生じたり流下阻害となるほか、氾濫流を引き起こし沿川における家屋や施設の浸水や損傷等を生じさせ、災害復旧を困難にさせる要因になります。このような状況から、河川の治水対策において、洪水時の流水や土砂の問題だけでなく流木対策も注目されています。

近年の土砂災害等の流木被害を踏まえて砂防分野では、「土石流・流木対策設計技術指針」が流木対策の強化等を中心に平成 28 年 4 月に改定されました。また、平成 29 年 12 月には、「中小河川緊急治水対策プロジェクト」として、砂防堰堤等による流木対策が促進されつつあります。

本シンポジウムにおいては、近年豪雨における流木災害の特徴やその対策を題材とした論文等が投稿されており、本 OPS では、投稿論文の中から、数編の話題を提供し、それをもとに流木災害への対応策検討に資する議論を会場全体で行います。

◆プログラム

1) 11:00~11:08 趣旨説明

2) 11:08~11:40 話題提供

【話題提供 1】 <観点：流木流出と被害の実態分析>

流木の挙動と巨礫による河床上昇に着目した、

平成 23 年台風 12 号による那智川流域井関地区の氾濫メカニズムの検討

国土技術政策総合研究所 木下篤彦

【話題提供 2】 <観点：河道での流木の輸送・捕捉などの特徴・解析>

移流拡散方程式に基づく流木の解析

土木研究所 ICHARM 原田大輔

【話題提供 3】 <観点：流木捕捉等の対策手法>

小本川の流木捕捉施設設計に関する水理模型実験による検討

株式会社水工リサーチ 加藤一夫

【話題提供 4】 <観点：河川への流木流出特性と対策案>

流木の流出特性を考慮した流木対策に向けた提案

三井共同建設コンサルタント株式会社 原田紹臣

3) 11:40~12:00 会場とのディスカッション

- ・ パネラー間での意見交換
- ・ 会場を含めた意見交換

ポスターセッション 1 (PS1)

日 時 : 2018 年 6 月 12 日 (火) 10:00~11:20

発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 40 分 (10:00~10:40)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 40 分 (10:40~11:20)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS1 発表論文等タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) UAV 空中写真の河床材料調査への適用性に関する検討 国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室 福島 雅紀	計測技術と モニタリング
2) 垂直写真の画像解析から砂の平均粒径を推定する手法の検討 日本工営株式会社 河川部 秋田 麗子	計測技術と モニタリング
3) 河川・湖沼における採水ドローンの開発と実用性の検証 山口大学大学院創成科学研究科 小室 隆	計測技術と モニタリング
4) UAV と SfM-MVS を用いた河床冠水部の写真測量のための水面屈折補正係数に関する検討 山口大学大学院 米原 千絵	計測技術と モニタリング
5) UAV と小型ワイヤレス超音波測深機を組み合わせた効率的なダム貯水池地形計測技術の提案 株式会社安田測量 安田 晃昭	計測技術と モニタリング
6) 河川環境調査におけるドローンを用いた流速・流量の評価 京都大学防災研究所 小林 草平	計測技術と モニタリング
7) 堤防法面の変状把握における UAV レーザ測量の適用限界 関東地方整備局下館河川事務所調査課 中村 賢人	計測技術と モニタリング
8) 画像解析を用いた河川流速計測のための WEB アプリケーション開発と適用性試験 株式会社東京建設コンサルタント 小林 範之	計測技術と モニタリング
9) 空撮画像を用いたダム貯水池の流木捕捉量の推定手法の開発 京都大学工学部地球工学科土木工学コース 鈴木 湧久	計測技術と モニタリング
10) ハイドロフォン・濁度計等を活用した天然ダム監視観測方法について 国土交通省近畿地方整備局大規模土砂災害対策技術センター 田中 健貴	計測技術と モニタリング

11) 濁り成分の砂防堰堤湛水域での滞留過程に着目した崩壊・土石流発生監視手法に関する研究 和歌山県土砂災害啓発センター 崎山 朋紀	計測技術と モニタリング
12) 降雨と斜面の湧水の電気伝導度との関係に着目した深層崩壊危険斜面抽出手法に関する研究 和歌山県土砂災害啓発センター 榎原 伴樹	計測技術と モニタリング
13) 鬼怒川中下流部の地形変化が河道貯留および平面流況に与える影響に関する基礎的検討 ～平成 27 年 9 月出水をケーススタディとして～ 宇都宮大学 地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科 池田 裕一	土砂動態と 土砂管理
14) 土砂供給で変動する河床の石礫の露出高を予測する方法の提案 土木研究所 水環境研究グループ 自然共生研究センター 宮川 幸雄	土砂動態と 土砂管理
15) 粗粒化河床への覆砂による礫の移動と流路変動 鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 三輪 浩	土砂動態と 土砂管理
16) 礫床河川における広い粒度分布をもつ河床材料の空隙率と土砂堆積高の解析法 五洋建設株式会社 立石 彩乃	土砂動態と 土砂管理
17) 急流河川における浮遊砂の高水敷および樹木域への堆積過程に関する水理実験 (国研) 土木研究所 寒地土木研究所 山口 里実	土砂動態と 土砂管理
18) 河床高データの解像度と計算格子サイズが河床変動解析に及ぼす影響に関する検討 岡山大学大学院環境生命科学研究科 中山 彰人	土砂動態と 土砂管理
19) 2011 年深層崩壊発生後の赤谷川流域からの土砂流出と川原樋川との合流点での河床上昇について アジア航測株式会社 岡野 和行	土砂動態と 土砂管理
20) 急拡・急縮を有する山地河川の水面形と断面形状の変化に伴う背水効果に関する研究 中央大学大学院 理工学研究科都市人間環境学専攻 小石 一宇	土砂動態と 土砂管理
21) 頭首工に設置された石組み魚道に関する実験から実務への適用 日本大学理工学部土木工学科 安田 陽一	河川構造物
22) 山地河川における河床変動と魚道の流入土砂量の制御 (独)国立高専機構 岐阜工業高等専門学校 和田 清	河川構造物
23) 被覆ブロック形式床止め工の変状水理実験から整理された研究課題 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 山本 陽子	河川構造物
24) 大規模な河岸侵食に伴い生じる橋台被災の基本的機構把握に向けた実験的研究 国土交通省国土技術政策総合研究所 武内 慶了	河川構造物
25) 確率的アプローチによる高水敷保護工施工範囲の設定 土木研究所 寒地土木研究所 井上 卓也	河川構造物

<p>26) 網状流路を有する大井川における植生域消失と流路変動の関係 愛知工業大学 赤堀 良介</p>	<p>河川維持管理</p>
<p>27) UAV 撮影画像処理による河床表層粒度分布把握に関する基礎的研究 株式会社建設技術研究所 東京本社河川部 阿左美 敏和</p>	<p>河川維持管理</p>

ポスターセッション 2 (PS2)

日 時： 2018 年 6 月 12 日 (火) 13:30~14:50

発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 40 分 (13:30~14:10)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 40 分 (14:10~14:50)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS2 発表論文等タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 大規模土砂災害発生後の河川の適切な維持管理に向けた浮遊砂動態の分析 国土交通省中国地方整備局 太田川河川事務所 調査設計第一課 中野 光隆	河川維持管理
2) 大量の土砂が流入する河川の境界条件である土砂量ハイドログラフの実用的推定法の研究 -平成7年7月姫川大洪水を例にして- 国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所 河川調査課 岡安 光太郎	河川維持管理
3) 自然堤防帯河川の高水敷掘削後の土砂再堆積～揖斐川と長良川の相違点とその要因～ 岐阜大学流域圏科学研究センター 原田 守啓	河川維持管理
4) 高水敷切下げ後の樹林化抑制に向けた草本植物の早期植生回復に関する研究 土木研究所 自然共生研究センター 兼頭 淳	河川維持管理
5) 中山間地河川の部分拡幅部における被災分析と軽減手法および環境評価に関する事例研究 (国研) 土木研究所 自然共生研究センター 大槻 順朗	河川維持管理
6) 戸蔭別川における床固工群と樹林帯の出水時の効果 北見工業大学 伊藤 朱花	河川維持管理
7) 網状流路を有する大井川を例とした移動床河道の維持管理に向けた課題と展望 名城大学理工学部 溝口 敦子	河川維持管理
8) 荒川下流のヨシ原保全・再生に向けた航走波対策による効果の検証 国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所河川管理課専門官 (前) 国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所地域連携課地域連携係長 小島 和男	河川維持管理
9) 随伴変数法による水位縦断分布のリアルタイム予測に関する研究 (その2) 日本工営株式会社 西口 亮太	河川維持管理

10) 河岸侵食対策のための目標澱筋による水制群設計法 国土交通省水管理・国土保全局河川計画課 松木 洋忠	河川維持管理
11) UAV を用いたダム放流時の流況観測と活用方法に関する研究 電源開発(株)茅ヶ崎研究所 専任部長 喜多村 雄一	河川維持管理
12) MMS を活用した河川維持管理の効率化・高度化の検討について 国土交通省 関東地方整備局 下館河川事務所 管理課 小林 勝也	河川維持管理
13) 河川管理における新技術の活用に関する一考察 日本工営株式会社 野間口 芳希	河川維持管理
14) UAV 写真測量における多時期計測データを用いた河道管理手法の検討 (株)復建技術コンサルタント 市川 健	河川維持管理
15) 関東地方整備局管内の河川・湖沼におけるダイオキシン類調査に基づく 中川・綾瀬川の結果の考察について いであ株式会社 環境創造研究所 高橋 厚	河川環境の評価と 管理・保全
16) 河川水温の時空間偏差と変動 東日本旅客鉄道株式会社 榎本 拓	河川環境の評価と 管理・保全
17) 流域水循環健全化施策立案のための簡易水収支マップの作成 八千代エンジニアリング株式会社 吉田 拓司	河川環境の評価と 管理・保全
18) 観測に基づく扇状地河川における失水率の推定 岐阜大学工学部社会基盤工学科 大橋 慶介	河川環境の評価と 管理・保全
19) 大きく不確実な環境下における適合的な付着藻類管理モデルの提案と斐伊川への応用 島根大学大学院 生物資源科学研究科 環境資源工学専攻 次橋 健太郎	河川環境の評価と 管理・保全
20) 江の川におけるオオカナダモの繁茂要因と抑制条件に関する検討 国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 栗原 淳	河川環境の評価と 管理・保全
21) 環境 DNA を用いた山口県内 2 級河川におけるオオカナダモの分布状況と生息適地の把握 山口大学大学院 創成科学研究科 後藤 益滋	河川環境の評価と 管理・保全
22) 湖沼における吐出し効果によるアオコ浄化手法の提案及び藻類の比増殖速度に 不確実性を考慮した基礎的研究 中央大学理工学研究科都市環境学専攻 柿沼 太貴	河川環境の評価と 管理・保全
23) 荒瀬ダムの撤去が直下流域の土砂動態および流れに与えた影響 熊本大学大学院自然科学研究科 安達 幹治	河川環境の評価と 管理・保全
24) 樋井川の大規模河川改修がシロウオの産卵環境に与えた影響 福岡大学工学部 伊豫岡 宏樹	河川環境の評価と 管理・保全

25) 四万十川における大規模樹木伐採がその後のアユの産卵場形成に及ぼす影響 高知工業高等専門学校 岡田 将治	河川環境の評価と 管理・保全
26) 高知県奈半利川におけるアユ人工産卵場の利用状況モニタリング ～潜水目視調査と環境 DNA 分析の比較を中心に～ 山口大学大学院 創成科学研究科 乾 隆帝	河川環境の評価と 管理・保全
27) 蛇行原における河道特性と自然堤防の規模の特徴 東京大学工学部 社会基盤学科 八木 澤脩	河川環境の評価と 管理・保全
28) 土砂供給に伴う河床環境変化の評価に向けた露出高による石礫の埋没度の定量化 土木研究所 自然共生研究センター 小野田 幸生	河川環境の評価と 管理・保全
29) 淀川水系のアユ資源量を増加させるための淀川大堰の運用改善方策の検討 株式会社 建設技術研究所 瀬口 雄一	河川環境の評価と 管理・保全

ポスターセッション 3 (PS3)

日 時 : 2018 年 6 月 13 日 (水) 9:30~10:50

発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 40 分 (9:30~10:10)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 40 分 (10:10~10:50)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS3 発表論文等タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 湧水環境依存種の生息場回復に向けた河道縦断における湧水ポテンシャル分布の評価手法 大同大学大学院 吉川 慎平	河川環境の評価と 管理・保全
2) ニホンウナギの生息状況からみた中小河川水際域の評価 —福岡市樋井川流域を対象に— 熊本大学大学院 先端科学研究部 環境科学部門 皆川 朋子	河川環境の評価と 管理・保全
3) MR (複合現実) を用いた河川流域環境の教育ツールの開発 山口大学大学院創成科学研究科 赤松 良久	河川環境の評価と 管理・保全
4) 「子どもの水辺」における河川学習活動の分析と河道特性ごとの活用ポテンシャルの提示 東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 山崎 健一	河川環境の評価と 管理・保全
5) 97 年改正河川法施行 20 年が河川環境施策への住民参加に与えた影響評価 国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究グループ 自然共生研究センター 坂本 貴啓	河川環境の評価と 管理・保全
6) 年間上位 r 個を対象にした極値解析による超過確率 1、000 年規模で設定される 想定最大規模降雨の妥当性 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科 田中 耕司	洪水・氾濫予測
7) 北海道における気候変動に伴う洪水外力の変化 北海道大学 山田 朋人	洪水・氾濫予測
8) C バンド MP レーダーによる地上雨量の精度と誤差要因 広島大学大学院工学研究科社会基盤環境工学 横江 祐輝	洪水・氾濫予測
9) レーダ雨量を用いた深層学習によるダム流入予測 日本工営株式会社 中央研究所 一言 正之	洪水・氾濫予測

10) DNNを適用した類似台風検索システムの課題と改善 (株)建設技術研究所大阪本社 由良 英作	洪水・氾濫予測
11) 貯留関数モデルを用いた洪水予測モデルの同定方法とフィードバック方法の改善提案 株式会社 アスコ大東大阪本社 杉浦 正之	洪水・氾濫予測
12) 平成 29 年 7 月九州北部豪雨の数値再現実験 東京理科大学理工学研究科土木工学専攻 金子 凌	洪水・氾濫予測
13) ニューラルネットワークと一次元不定流を組合せた縦断的な河川水位予測手法 日本工営株式会社 中央研究所 石尾 将大	洪水・氾濫予測
14) 流木の挙動と巨礫による河床上昇に着目した、平成 23 年台風 12 号による 那智川流域井関地区の氾濫メカニズムの検討 国土交通省国土技術政策総合研究所 (国土交通省近畿地方整備局大規模土砂災害対策技術センター) 木下篤彦	洪水・氾濫予測
15) 土砂災害危険区域の林地斜面における降雨の浸透過程の解明 東京都建設局 寺尾 晃平	洪水・氾濫予測
16) 平成 29 年 7 月九州北部豪雨時の筑後川右岸流域を対象にした分布型流出・ 1 次元河道網洪水流解析 九州工業大学大学院 工学府建設社会工学専攻博士前期課程 勝原 亮介	洪水・氾濫予測
17) 平成 29 年 7 月九州北部豪雨時の花月川流域の流域流出・洪水氾濫解析 九州工業大学大学院 工学府建設社会工学専攻博士前期課程 中島 晴紀	洪水・氾濫予測
18) 河川工事の安全管理に用いる「出水警報システム」の長期適用と予測精度の向上に関する検討 大成建設株式会社 技術センター 大野 剛	洪水・氾濫予測
19) オランダの治水分野における気候変動適応策の検討・実施状況に関する調査報告 一般財団法人 北海道河川財団 企画部 千葉 学	水防災・減災
20) 水防災意識社会に対応した総合的な治水対策の展開について (一財)国土技術研究センター 河川政策グループ 研究主幹 岡安 徹也	水防災・減災
21) 2017 年北部九州豪雨災害の特徴的現象からみる河川災害復旧手法の考察 九州大学工学研究院 島谷 幸宏	水防災・減災
22) LP データを活用した立退き避難を特に優先すべき地域の把握手法の開発 (株)東京建設コンサルタント 総合河川部 関根 敬	水防災・減災
23) 2017 年九州北部豪雨により発生した朝倉市白木谷川流域の 流木・土砂・水混相流の流出規模に関する研究 群馬工業高等専門学校 永野 博之	水防災・減災
24) 流水によって人体が受ける流体力と水難事故の危険性に関する実験的研究 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 岡本 隆明	水防災・減災

25) 六角川水系牛津川における 2 遊水地の洪水調節効果について 大成建設株式会社 藤原 周平	水防災・減災
26) 水理模型実験による水害防備林の洪水氾濫流木捕捉機能強化の検討 東京大学大学院 遠藤 雅実	水防災・減災
27) 数値実験による急流河川霞堤の機能に関する一考察 株式会社東京建設コンサルタント 妹尾 泰史	水防災・減災
28) 2015 年 9 月関東・東北豪雨災害時における避難情報及び浸水状況が住民の 避難行動へ及ぼす影響の地域特性に関する分析 中央大学大学院 諸岡 良優	水防災・減災
29) 筑後川の旧蛇行部と支川流入による治水と利水への効果の検討 佐賀大学大学院工学系研究科 川原 航	水防災・減災

ポスターセッション 4 (PS4)

日 時 : 2018 年 6 月 13 日 (水) 13:00~14:20

発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 40 分 (13:00~13:40)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 40 分 (13:40~14:20)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS4 発表論文等タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 堤体表面沈下分布と貫入試験によるパイピング緩み領域の把握 愛媛大学大学院理工学研究科 岡村 未対	堤防管理
2) 高頻度・高密度観測による堤防近傍伏流水の出水時応答に関する考察 群馬大学大学院 南雲 洋平	堤防管理
3) 天端舗装からの雨水集中による砂質土堤防のすべりに関する模型実験 山口大学大学院創成科学研究科 森 啓年	堤防管理
4) 堤防脆弱性指標に基づく洪水位下降時における裏法安定性に関する研究 中央大学大学院理工学研究科都市環境専攻 上村 勇太	堤防管理
5) 地震動が外水位上昇を受けた堤体の崩壊挙動に及ぼす影響に関する縮尺模型実験 北見工業大学 川尻 峻三	堤防管理
6) 高透水性基礎地盤を有する河川堤防の崩壊メカニズムと評価手法に関する研究 名城大学 小高 猛司	堤防管理
7) 堤防管理の高度化に向けた堤防地表面の点群データの活用に関する検討 内閣府 総合海洋政策推進事務局 安達 孝実	堤防管理
8) 千曲川堤防における裏のり尻付近の基盤漏水・噴砂発生箇所の 土質・地下水位と旧河道特性の関係 株式会社 キタック 佐藤 豊	堤防管理
9) 2016 年台風 10 号による二ツ森川の破堤箇所における詳細調査及び被災要因分析 国立研究開発法人 土木研究所 東 拓生	堤防管理
10) 河川堤防のパイピング進行に伴う基礎地盤表層の変形に関する模型実験 山口大学大学院創成科学研究科 倉田 大輔	堤防管理

11) 堤防の浸潤監視の実用化に関するフィールド試験 一般社団法人リバーテクノ研究会 太田 雅之	堤防管理
12) 浸透による堤防のり尻からの崩壊の円弧すべり計算を用いた評価法の提案 土木研究所 石原 雅規	堤防管理
13) 河川堤防の築堤材料や管理状況等が越流時の侵食耐力に与える影響についての考察 国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室 鈴木 淳史	堤防管理
14) 実流速による河川堤防基礎地盤の水みち進行判定の試算 国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室 笹岡 信吾	堤防管理
15) 河川堤防のパイピング危険度の力学的簡易点検フローと 漏水対策型水防工法の効果発揮条件 名古屋工業大学大学院 西村 柁哉	堤防管理
16) 多粒子限界流速を用いた堤防の耐侵食性能の評価 中部大学工学部都市建設工学科 杉井 俊夫	堤防管理
17) 河川堤防植生の適切な施工・管理に向けた現地植生調査 土木研究所寒地土木研究所水環境保全チーム 谷瀬 敦	堤防管理
18) 河川維持管理における堤防刈草の有効活用に関する一考察 公益財団法人 河川財団 河川総合研究所 山本 嘉昭	堤防管理
19) 新規堤防等における植物成長調整剤を用いた養生方法の提案 公益財団法人 河川財団 河川総合研究所 青山 治彦	堤防管理
20) 渡良瀬川における植物成長調整剤を用いた堤防植生管理手法の検討 公益財団法人 河川財団 八木 裕人	堤防管理
21) 堤防決壊時に行う緊急締切作業の効率化に向けた技術検討 土木研究所寒地土木研究所寒地河川チーム 島田 友典	堤防管理
22) 既設堤防の浸透対策としてのスクリューパープドレーン工法の開発 株式会社建設技術研究所 中部支社 中嶋 亮太	堤防管理
23) 落差工による跳水・浸透流およびそれらの河床構造物の安定性に及ぼす影響 長岡技術科学大学環境社会基盤工学専攻 楊 宏選	堤防管理
24) 水理模型実験代替を目的とした3次元流体解析によるダム越流係数算定手法の開発 東北電力株式会社 研究開発センター(電源・環境G) 熊谷 洋	ダムの設計と 管理
25) 気象予測情報を適用した発電専用ダムにおける流域の洪水被害軽減運用手法の検討 電源開発株式会社 土木建築部 高倉 秀幸	ダムの設計と 管理
26) 豪雨に伴う土砂・流木生産と流下過程に関する研究 土木研究所 ICHARM 山崎 祐介	土砂動態と 土砂管理

27) 小本川の流木捕捉施設設計に関する水理模型実験による検討 株式会社 水工リサーチ 加藤 一夫	河川構造物
28) 移流拡散方程式に基づく流木の解析 国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM) 原田 大輔	河川維持管理
29) 流木の流出特性を考慮した流木対策に向けた提案 三井共同建設コンサルタント株式会社 原田 紹臣	河川維持管理